

上京ワークハウスに《AED》を設置しました

AED（自動体外式除細動器）は、突然心肺停止状態に陥った時、心臓に電気ショックを与えて、正常な状態に戻す、誰にでも簡単に扱える医療機器です。病院、駅、学校や銀行などの公共施設に設置されています。

上京ワークハウスでは以前、利用者が自宅で倒れ、九死に一生を得ました。ワークハウスや地域の中で、『一人でも多く救える命を AED で』と昨年 12 月、設置をしました。設置した日に職場で講習会を開き、「だいじょうぶですか!？」「誰か AED を!」「救急車を呼んでください!」と実演! AED から流れる自動音声に緊迫感が漂いました。

もし、地域で職場で、必要な事態になった時、上京ワークハウスの AED がお役に立てれば。ぜひ、ご利用ください。（※平日の日中、事業所が開いている時間帯（朝8時から夕方））



厨房より

蒸しまんづくり、今が最盛期です!!!



冬物品、バレンタイン物品でたくさんの蒸しまんをご注文いただきました。

定番の蒸しまんに加えて冬限定のチョコまん製造、高野スポーツセンターでのクリスマス会用ラスク作りに取り組みました。普段やっていない仕事もありましたが、新型コロナウイルス対策としての時短作業で集中力を切らさずに頑張っています。

新商品の開発やラスクの再販に向けて頑張っていますので楽しみにしてください!

※蒸しまんのご注文は 3 日前 10 個より承ります。蒸した状態、冷凍とお客様のご要望によりお届けしますので、お気軽にワークハウスまでお問合せください(#^.^#)



謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様から、当法人ならびに仲間へのご理解と、ご支援、ご協力をいただきましたことに対しまして、役員、職員一同、心より御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスによる感染拡大による影響を受け、休業せざるを得ない期間がありました。幸いにもクラスターを生じさせることなく過ごすことができました。これも、ひとえに皆様から寄せられたご寄付によって、抗原検査のキットを相当量購入することができたこと等、みなさま方の温かなご理解とご支援によるところが大きく、感謝の気持ちでいっぱいです。抗原検査を適時に実施することを通じて、感染の有無を把握することがタイムリーにでき、休業から再開等の対応をする際の判断の拠り所とすることができました。この新型コロナウイルスよって、生命を奪われた多くの人々、あるいは感染後の後遺症に苦しむ人、働く場を失った多くの人達など、沢山の悲劇や苦しみを目の前にしながら心痛む思いを繰り返してきました。報道される感染者数や重症者数、死亡者数、失業者数は、一人ひとりの苦しみや悲しみを示すものではありません。けれど、一人ひとりには、私や、私の家族でもありえる「数字」です。数字が示すのは、人の生命と暮らしてあることを想像しながら、コロナ危機の時代を生きて行きたいと思えます。

就労支援施設としての法人経営にも困難をもたらした足掛け3年間にわたる「コロナ危機」を振り返ってみました時に、沢山の辛いこともありましたが、「危機」や「困難」にあっても「人間の生命と尊厳を護ること」と「希望」を忘れずに、前に進むことの大切さを改めて学んだように思います。このことは、どのようなお商売やお仕事にも通じる事かもしれません。

「生きる場・働く場・人とのつながりの場」としてのワークハウスでは、「危機」を超えていくためのさまざまな取り組みをすすめてきましたが、利用者・家族と職員との信頼関係がより深まってきているのではないかと感じております。また、職員が「危機」を乗り越えるために、職員がチームとして、一人ひとりが力を発揮しあい支えあう場面があちこちでみられました。そして、仕事への臨み方や考え方、支援のスキルなど、全体として、より前進してきていると受け止めております。

どのような危機に直面しても「誰もが一人のかけがえのない人として豊かに発達しつづけること」。そのための環境づくりと支援の充実と経営の安定を課題として、役員、職員一同、前に進んで行く所存です。

今年が、みなさまにとって、よき月日となりますことを祈念しております。また、今年もかわらぬ、みなさま方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2022年 正月

(社福)京都ワークハウス 理事長 高城 佳代子